

地域医療連携室だより

令和 6 年 5 月春 ・ 第 37 号

大阪市立十三市民病院

病院長 挨拶

平素より地域の医療機関の皆様には格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。当院は「コロナ専門病院」の看板を外し、早いもので 1 年が経過しました。「コロナ禍前に戻ること」を目標にして、内科 2 次救急の再開、6 階病棟と HCU の再稼働、結核診療の再開、複数診療科における午後初診外来の開始、小児科の時間外対応の再開や産後ケア事業への参画等を行いながら、地域医療連携室を中心とした医療機関訪問、様々な院内イベントの開催や地域への積極的な広報活動を行った 1 年でした。SNS も開始しました。しかしながら、令和 5 年度の診療実績を総括すると、外来診療は何とかコロナ禍前の約 70%程度に回復しましたが、入院診療は残念ながら 70%回復には至りませんでした。

そこで、令和 6 年度は「救急・がん・感染症」を 3 つの柱として、診療をさらに拡大していきたいと考えています。既に、4 月以降、以下のことを行っています。



病院長 倉井 修

- ・新しく「緩和ケア内科」を標榜：大阪府がん診療拠点病院として、がん患者の身体的・精神的苦痛、社会的な問題等の把握・対応をがんと診断した時から経時的に実施していきます。そして、令和 7 年度には「緩和ケア病棟」造設の予定です。
- ・乳がん検診の再開：肺・胃・大腸・子宮・前立腺とともに 6 つのがん検診ができます。
- ・無料送迎バスの運行方法の変更：阪急三国駅、阪急十三駅、JR 塚本駅、JR 加島駅と病院との直行便に変更することにより、便数増加と利便性を向上させます。

まだまだやるべきことはたくさんあると考えておりますので、ご助言とご協力を今後ともよろしくお願い申し上げます。

新副院長 挨拶



麻酔科
小田 裕

令和 6 年 4 月より副院長を拝命致しました、『小田 裕(おだ ゆたか)』と申します。昭和 60 年に大阪市立大学(当時)を卒業し、平成元年に同大学院を修了、その後大学で臨床・研究に従事しました。平成 23 年に大阪市立総合医療センターに異動、同麻酔科部長を経て、平成 29 年に十三市民病院に着任しました。

以来一貫して、「断らない麻酔」「安全な麻酔」を心掛けて参りました。現在は全診療科においてコロナ前の診療が再開され、手術も通常通り行っています。当院で手術を受けられる患者さんは御高齢の方が多く、繰り返し手術を受けられる場合が多いのが特徴です。術前に十分な情報収集を行い、各患者さんに適切と思われる方法で、安全面にも十分配慮して麻酔を行っています。また骨折や急性腹症、帝王切開など、緊急手術の依頼に対しても、できる限りお待たせすることなく対応しています。「麻酔を通じた地域医療への貢献」が、私たちの目標です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

緩和ケア内科部長挨拶



大庭 宏子

このたび2024年4月1日より大阪市立十三市民病院 緩和ケア内科部長に就任いたしました『大庭 宏子(おおばひろこ)』と申します。2018年3月まで当院消化器内科で勤務しており、地域の先生方にお世話になりました。2018年4月より本年3月まで大阪市立弘済院附属病院で勤務しておりましたが、当院に「緩和ケア内科」を新設することとなり、部長として帰って参りました。専門は消化器内科であり、消化器内科担当部長も兼務しております。

がん患者の数は、年々右肩上がりに増えております。当科はがんによる疼痛をはじめがんによるあらゆる症状の緩和を目指しております。当院でがん治療をされている患者様だけでなく、地域の先生方が対応されているがん患者の方で緩和ケアが必要な患者様に対しても地域連携をさせていただき、治療のお手伝いができたらと考えております。

専門分野	消化器内科（消化管）
認定資格	緩和ケア研修会修了、日本内科学会総合内科専門医・認定内科医 日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医 日本肝臓学会専門医、 ICD制度協議会 ICD（インフェクションコントロールドクター） 抗菌化学療法認定医、認知症サポート医、健康スポーツ医

新消化器外科部長挨拶



金沢 景繁

令和6年4月より大阪市立十三市民病院 消化器外科担当部長として着任いたしました『金沢 景繁(かなざわ あきしげ)』と申します。

平成3年に大阪市立大学（現大阪公立大学）を卒業し、同附属病院で臨床研修を行った後、大学院で急性胆管炎の病態について研究致しました。平成9年大学院を卒業した後、関連病院を勤務し、消化器外科全般を学びました。その後、平成12年に京都大学移植外科に半年間派遣され、研修。同年10月から開始されました大阪市立大学での生体肝移植手術に主治医として関わりました。

平成16年より大阪市立総合医療センターでの勤務を開始した後は、低侵襲な肝切除の導入、定型化、普及につとめ、同病院における安全で低侵襲な腹腔鏡下肝切除やロボット支援下肝切除を数多く行ってまいりました。

十三市民病院では、地域のニーズの高い各種外科疾患に対して、安全で低侵襲な外科治療を行って参りたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い致します。

専門分野	消化器外科、肝胆膵外科、内視鏡外科、移植外科
認定資格	日本肝胆膵外科学会高度技能指導医・評議員 日本内視鏡外科学会技術認定医・評議員、日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医・評議員 日本肝臓学会専門医、身体障害者福祉法第15条「肝臓機能障がい」指定医 ロボット支援下肝部分切除および外側区域切除プロクター（daVinci） 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 日本医療機能評価機構医療クオリティーマネジャー 日本クリニカルパス学会評議員

呼吸器内科医長 山入 和志



2024 年 4 月より十三市民病院 呼吸器内科に着任いたしました『山入 和志(やまいり かずし)』と申します。2016 年に勤務させていただいたことがありカムバックとなります。いまだに「山入和志」とネットで検索すると 2016 年の「地域医療連携室だより」が検索上位に出てまいりますので、今回の「地域医療連携室だより」の原稿についても、変なことは書けないぞと緊張しております。

2011 年に名古屋大学を卒業後に、淀川キリスト教病院呼吸器内科、十三市民病院呼吸器内科での勤務を経て、2017 年より大阪公立大学臨床感染制御学で呼吸器感染症を中心に、感染症全般の研鑽を積まさせていただきました。2021 年より大阪市立総合医療センター呼吸器内科での勤務を経て、このたび当院に異動となりました。

2016 年と同様の内容となりますが、地域全体での呼吸器診療においてチーム医療の一員として、ご迷惑をおかけしないように、またできる限り少しでもお役にたてるように邁進していきますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

外科・消化器外科医長 北山 紀州



本年 4 月から十三市民病院外科 消化器外科医長として着任いたしました『北山 紀州(きたやま きしゅう)』と申します。

和歌山生まれ和歌山育ちです。小 5、小 1、2 歳(全て男児)の父です。2009 年に富山大学医学部を卒業し 2011 年大阪市立大学腫瘍外科学(現大阪公立大学消化器外科学)に入局いたしました。その後関連病院で修練を行い、その間大学院で博士号を取得しております。資格としては外科専門医、消化器外科専門医・指導医、消化器がん外科治療認定医、腹部救急認定医等を取得しております。直近 2 年間は大阪公立大学で大腸癌を中心に従事して参りました。大腸癌はもちろん、虫垂炎、胆嚢炎、ヘルニア等良性疾患も得意としております。よりよい医療・求められる医療の提供を目指し少しでも貢献できればと考えております。どうかよろしくお願い申し上げます。

整形外科医長 伴 祥高



令和 6 年 4 月より大阪市立十三市民病院 整形外科医長として着任いたしました『伴 祥高(ばん よしたか)』と申します。

平成 23 年福井大学医学部を卒業し、淀川キリスト教病院に初期研修医として働き、その後は大阪市立総合医療センター・済生会千里病院・生長会府中病院・大阪公立大学で一般外傷整形外科医および骨軟部腫瘍医(癌の骨転移・骨軟部腫瘍診療を専門とする医師)として診療に従事してきました。令和 2 年からは大阪公立大学大学院博士課程へと入学し、約 4 年間にわたり癌細胞に対するエタノールなどの薬物を用いた抗腫瘍効果の検討などの癌基礎研究を行ってまいりました。

骨軟部腫瘍(良性・悪性)の分野は専門性が高い上、体幹・四肢いたるところに発生します。日々の診療において、経過観察?専門病院への紹介すべき等治療方針にお困りになることがあるかと思えます。少しでも悩むような症例がございましたら、いつでもお気軽にご紹介していただければと思います。

呼吸器内科医員

小林 正典



令和 6 年 4 月より大阪市立十三市民病院 呼吸器内科医として着任しました『小林 正典(こばやし まさのり)』と申します。

平成 27 年に大阪医科大学を卒業し大阪市立大学医学部附属病院で 2 年間初期研修を行った後、同大学の呼吸器内科学へ入局いたしました。その後は和泉市立病院、大阪鉄道病院での勤務を経て大阪市立大学の大学院へ入学しました。大学院在籍中はコロナ専門病院となった大阪市立十三市民病院へ 1 年間勤務した後、大学病院にて研究および臨床業務を行ってまいりました。この度は 3 年ぶりに十三市民病院で勤務させていただくことになります。

コロナ専門病院としての役目は終わりましたが、現在も新型コロナウイルス感染症で入院が必要な患者様は存在しており、引き続きコロナ診療へ従事していきたいと思っております。また気管支喘息や COPD といった他の呼吸器疾患も地域の先生方と連携しながら行っていきたいと考えております。よろしくお願い致します。

耳鼻いんこう科

雨皿 和輝



令和 6 年 4 月より大阪市立十三市民病院の耳鼻咽喉科へ着任しました『雨皿 和輝(あめさら かずき)』と申します。

出身は三重県で、平成 30 年に大阪市立大学を卒業いたしました。初期研修を経て母校の耳鼻咽喉科へ入局いたしました。大学病院での研修を中心に、手術や耳鼻咽喉科の診療を行って参りました。まだまだ駆け出しではございますが、特に鼻科手術を専門にすべく日々研鑽を積んでおります。

耳鼻咽喉科領域は感覚器も多く扱い、患者様の QOL にも直結する診療科です。微力ではございますが、よりよい医療を提供できるよう地域の先生方に貢献できればと考えております。よろしくお願い申し上げます。

次回「市民公開講座」について

開催日時：令和 6 年 **6** 月 **22** 日(土) 午前 10:30～

場所：大阪市立十三市民病院 9 F すかいルーム

診療科：緩和ケアチーム

1. 知ってます？ 知ってほしい！ 緩和ケア

緩和ケア内科部長 大庭 宏子

2. リハビリテーションの関わり

理学療法士 宮本 光二

3. より良い人生を送るための「人生会議」

緩和ケア認定看護師 岡 千奈美



インスタ連載中。

編集 〒532-0034 大阪市淀川区野中北 2-12-27

大阪市立十三市民病院 地域医療連携室

代表電話：06-6150-8000 直通電話：06-6150-8067

<https://www.osakacity-hp.or.jp/juso/>

